
ブレードランナー
HARRISON FORD IS
BLADE RUNNER™

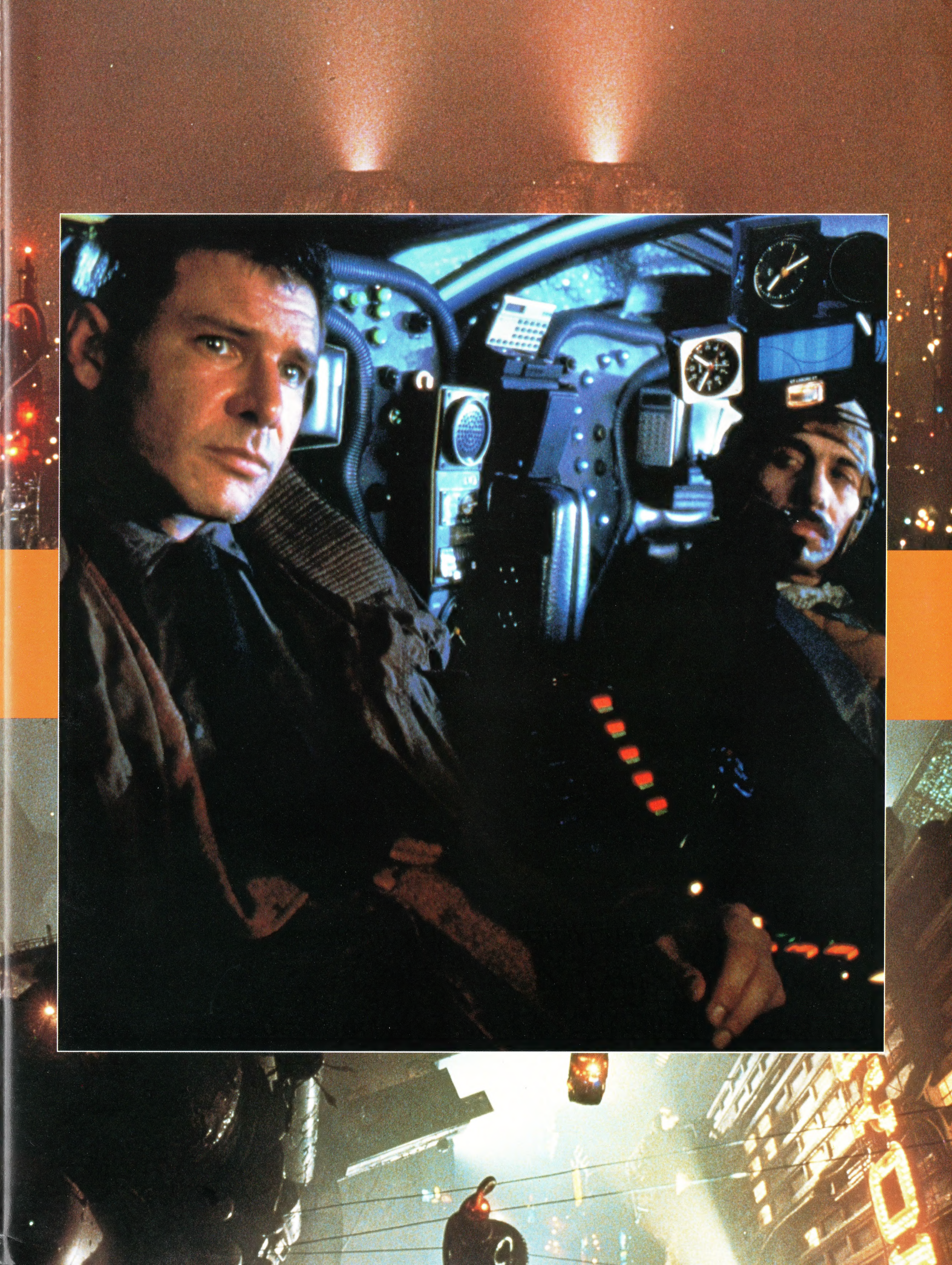
ザ・キャスト

デッカード……………………ハリソン・フォード
バッティ………………………ルトガー・ハウアー
レーチェル……………………ショーン・ヤング
ガフ…………エドワード・ジェームス・オルモス
ブライアント…………Ｍ・エメット・ウォルシュ
プリス……………………………ダリル・ハンナ
セバスチャン…………ウィリアム・サンダーソン
レオン…………………ブライオン・ジェームス
タイレル………………………ジョー・ターケル
ゾラ………………………ジョアンナ・キャシディ
チョウ…………………………ジェームス・ホン
ホールデン……………………モーガン・ポール
ベア……………………………ケビン・トンプソン
カイザー……………ジョン・エドワード・アレン
タフェイ・ルイス……………………ハイ・パイク
カンボジア女性………………キミロ・ヒロシゲ
スシ店主………………………ロバート・オカザキ
セールス・レディ………キャロリン・デマージャン
バーテンダー１…………………チャールス・ナップ
バーテンダー２…………………レオ・ゴーシイ JR.
バーテンダー３…………トーマス・ハッチンソン
ショー・ガール………………………ケリー・ハイン
バーの客１………………………シャロン・ヘスカイ
バーの客２………………………ローズ・マスカリ

ザ・スタッフ

監督……………………………リドリー・スコット
製作…………………………マイケル・ディーリー
脚本……………………ハンプトン・ファンチャー
デビッド・ピープルス
撮影監督………………ジョーダン・クロネンウェス
製作デザイン…………………ローレンス・Ｇ・ポール
共同製作……………………………アイボー・パウエル
音楽作曲、編曲、演奏＆製作…………バンゲリス
編集監修…………………………テリー・ローリングス
製作総指揮…………………………ブライアン・ケリー
パンプトン・ファンチャー
特殊撮影効果監修…………ダグラス・トランブル
リチャード・ユーリチッチ
デビッド・ドライヤー
原作小説「アンドロイドは電気羊の夢を見るか？」
……………フィリップ・Ｋ・ディック
製作担当顧問………………………Ｃ・Ｏ・エリックソン
製作主任……………………キャサリーン・ハーバー
製作班主任…………………………ジョン・W・ロジャース
第一班助監督…………………ニュートン・アーノルド
ピーター・コーンバーグ
第２班助監督……………………………ドン・ハウアー
モリス・チャプニック
リチャード・シュロアー
衣装……………………………チャールス・ノード
マイケル・カプラン
美術監督…………………………デビッド・スナイダー
未来美術デザイン…………………………シド・ミード
撮影補佐…………………………スチーブン・ポスター
ブライアン・タファーノB.S.C.







「2001年宇宙の旅」「未知との遭遇」「スター・ウォーズ」「エイリアン」のダイゴ味を結集した80年代最高の娯楽SFアクションの集大成！

地球は40年後、どうなっているか？

2020年、400階の超高層ビル群がそびえ立つアメリカの巨大都市。人口過剰と環境汚染にみちた地球から逃れるため、何百万という人たちがほかの惑星へと移住して行った。人間たちはスター・ウォーズ（惑星戦争）にそなえて、〝レプリカント〟と呼ばれる高度に発達したアンドロイド（人造人間）を製造していた。レプリカントはまたスペース・コロニー（植民惑星）における奴隷でもあった。

この映画は、スペース・コロニーから脱走して地球に潜入し、人間になりすまして復讐を果たし、宇宙圏征覇を狙う強力なレプリカント軍団と、無力な警察になりかわって敢然とひとりで立ち向かう非情な特別捜査員との想像を絶した壮烈な闘いを主軸に、悪夢と化した明日の世界を、製作費52億円を投入してリアルな迫力で映像化し、終始徹底したハードボイルド・アクションで描く世紀のサイエンス・エンターテインメント超大作である。



主役の特捜員〝ブレードランナー〟に扮するのは、「スター・ウォーズ」シリーズと「レイダース／失われたアーク」のヒーローを演じ新時代のスターとしていまや人気最高潮のハリソン・フォード。宿敵となるレプリカントのリーダーには「ナイトホークス」の世界征服をもくろむ恐るべき悪役で名をあげたオランダの名優ルトガー・ハウアー。神秘的な魅力で〝ブレードランナー〟の心をとりこにする女に「パラダイス・アーミー」のショーン・ヤング。そのほか、エドワード・オルモス、M・エメット・ウォルシュ、ジョー・ターケル、ブライオン・ジェームス、ジョアンナ・キャシディなどの多彩な助演陣が脇を固めている。

監督は、やはり斬新なＳＦ大作「エイリアン」の世界的ヒットでいちやく注目を集めた稀代のビジュアリスト、リドリー・スコット。「エイリアン」でチームを組んだラッド・カンパニー社長のアラン・ラッドJr.の希望で今回も演出を手がけることになったのである。そして、スペース・テクノロジーの最新技術を駆使してスケールの大きい特殊効果をふんだんに見せてくれるのが、ダグラス・トランブル率いるトランブル・エンターテインメント・エフェクツ・グループ。トランブルは「2001年宇宙の旅」「未知との遭遇」「スター・トレック」などでアカデミー賞にノミネートされた特殊効果の第一人者である。製作は「ディア・ハンター」でアカデミー賞に輝やいたマイケル・ディーリー。

一作ごとにスキャンダラスなまでの迫力でまったく新しい文学の世界を展開していく現代ＳＦ最大の巨匠フィリップ・Ｋ・ディックのベストセラー小説『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』をもとに、ハンプトン・ファンチャーとデビッド・ピープルズが脚本を執筆。（ファクトとフィクションをみごとに融合し、第３次世界大戦、惑星植民地、アンドロイド、ロボットアニマルなど通俗的なＳＦの設定を巧みに駆使して、すぐまじかのリアリスティックな未来の世界を創造し、新しいＳＦ脚本の誕生と絶賛されている）。

美術には未来派デザイナーとして名高いシド・ミードの全面的協力を仰ぎ、ファッションはメビウスの名で知られているフランス人コミック・アーチスト、ジャン・ジローのアドバイスを受けている。

「2001年宇宙の旅」「未知との遭遇」「スター・ウォーズ」「エイリアン」のダイゴ味を結集し、スリリングな恐怖感あり、サスペンスフルな臨場感あり、パワフルな衝撃感あり、まさに映画の面白さがぎっしり詰まった80年代最高の娯楽ＳＦアクションの豪華な集大成となっている。

SYNOPSIS

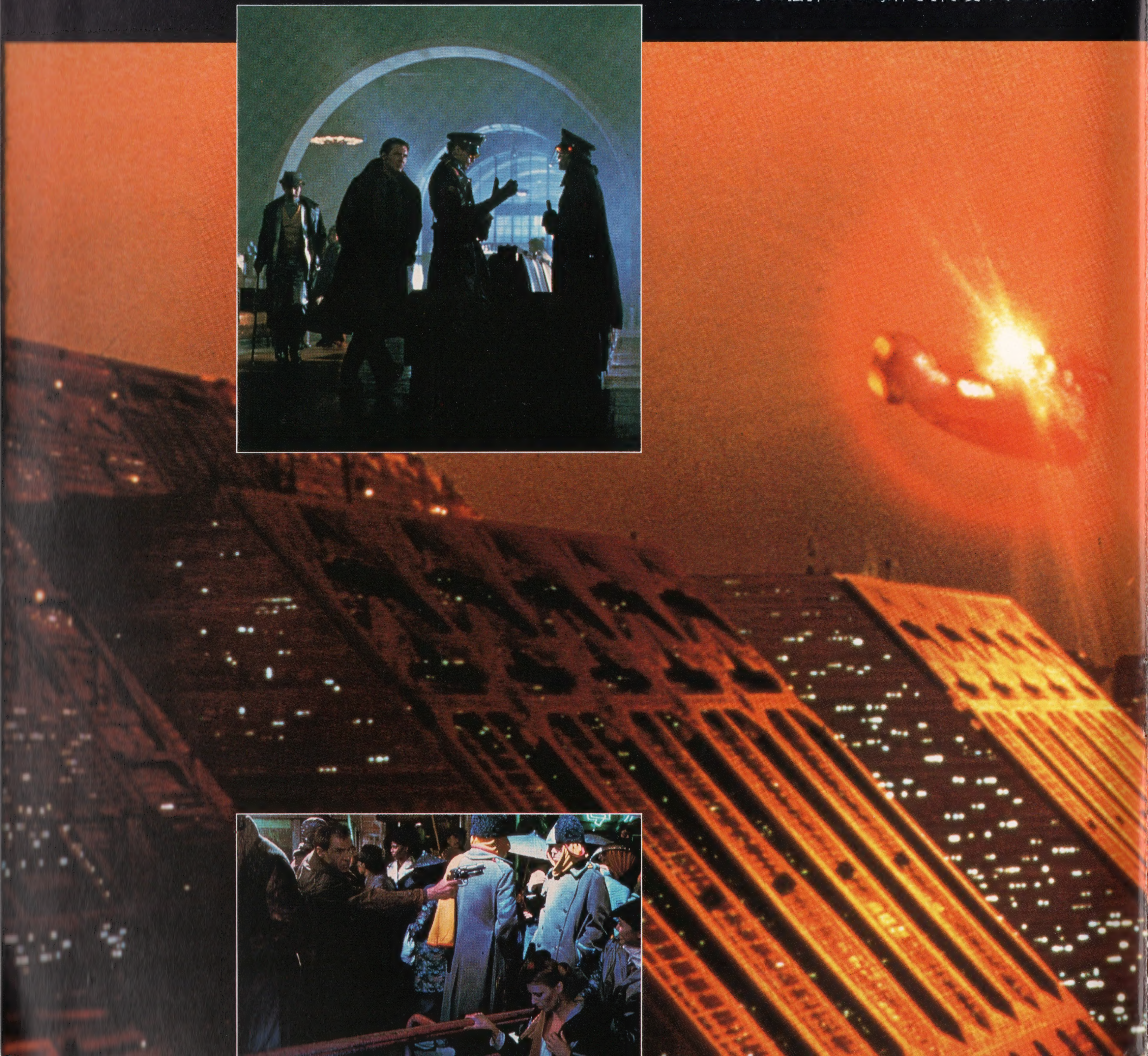
西暦2020年、この頃アメリカでは、人口過剰と地球の汚染のため、何百人という人々が、心を残しながらも続々他の惑星へと移住していった。あとに残った者たちは、地上数百階、といった超高層ビルの林立する巨大都市に住んでいる。街は、常軌を逸した人間たちがうごめく、ごった煮のるつぼと化していた。ネオンは絶えずどぎつい色を点滅させ、交通は異様な渋滞ぶり……おまけに空からは、酸を含んだ雨がひっきりなしに降り注ぎ、麻痺しきった街をずぶぬれにしている。そんな中で警察は、スピナーや、エスパーといった精巧な装備を用い、かろうじてコントロールを保っていた。

地球の花形産業は、今や遺伝子工学だ。世界中の動物の大半が死滅した時、この分野はペット用の人工動物を創り出すことにより一大ブームを巻き起こしたのだった。業界はすぐに、人間をも生産し始めた。レプリカントと呼ばれる人造人間たちは、植民惑星での奴隷労働と、宇宙空間における軍事的役割を肩代りするために供給されていたのだ。

レプリカント製造の最大手、タイレル社はごく最近、ネクサス・シックスという力も知性もきわだった超高級レプリカントを市場に出した。しかし彼らは、あまりに人間に近かった。――そして遂に事件は起こった――警察に入った緊急情報によると、ネクサス・シックス型レプリカントが4名、スペース・シャトルの乗組員を殺害してこれを乗っ取り、管轄都市近辺に着陸したというのだ。

隊長のブライアントの脳裏に、すぐさまある男が浮かんだ。人間でない殺人者たちを識別する能力にかけて、あいつの右に出るものはない。その男の名はリック・デッカード（ハリソン・フォード）――元警官で、すご腕のブレードランナーだ。ダウンタウンでヌードルを食べていたデッカードは、強引にスピナーに乗せられ、本署へと連れ去られた。

これまた強引にこの事件を引き受けさせられたデ



ッカードは、ただちに製造元のタイレル社に赴く。社長のタイレル自身から、ネクサス・シックス・レプリカントについて情報を仕入れるためであった。

　スピナーで七百階建てのピラミッド型タイレル・ビルに到着。屋上からの訪問である。タイレルのオフィスには、謎めいた美女がおり、レイチェル（ショーン・ヤング）と名のってデッカードの気をそそった。

　タイレルは、調査に協力する前に、レイチェルをテストしてみては？　とデッカードに挑戦してきた。半信半疑で受けてたったデッカードだが、百以上の質問を重ねたあげく、ようやく確信を持つことができた。タイレルのあいらしい秘書は、人間ではなかったのだ。

　その間に、男女２名づつのレプリカントたちは、街の人ごみの中に消えていた。リーダー格のロイ・バッティ（ルトガー・ハウアー）には、ある計画があった。

　最初の糸口をたどっていく内、デッカードはある奇妙なナイトクラブに行きつく。そこでエキゾティックなスネイク・ダンスを踊っていた女こそ一味の一人だった。逃げ出した女を追いつめたデッカードは、ついに特殊拳銃ブラスターでとどめをさした。

　仲間の死を、第二のレプリカントが見ていた。むしゃぶりついてきたその男と激しい格闘の末、デッカードはあやうく殺されかける。そのせつな、銃声一発！　相手が頽れた。見あげるとそこに、レイチェルが立っていた。

　レイチェルに救けられアパートに帰ったデッカードは、自分があらゆる法や常識の枠をこえて、このたぐいまれな美貌の、不幸なことに人間ではない女に惚れ込んでしまっていることに気づく。翌朝ふたりは、初めて抱き合うのだった。

　４人の逃亡レプリカントは、なぜ地球に帰ってきたのだろう。それは、リーダーのバッティが、創造者であるタイレル社長と対決せんと、ピラミッド・ビルに潜入した時に初めて明らかになる。タイレルに要求を拒絶されたレプリカントは、〝生みの親〟の頭を素手で砕いて、友の死の復讐へと出かけるのだった……



特殊な能力を持つハンターのコードネーム《ブレードランナー》とは――――

地球に不法潜入したレプリカントの犯罪者を撲滅するエクスターミネーター（処刑者）のコードネーム。人間とまったく区別のつかない超高級レプリカントたちの犯罪や反乱にたいし、スピナーで空を駆けめぐり地上を疾走して追撃し、フォークト・カンプフ測定器で識別し、ブラスターで抹殺する、特殊な能力を訓練された刑事たちのことである。

この映画のヒーロー、リック・デッカードは、もと警官だったが、そのブレードランナーのなかでも右にでる者のいない超一流のスゴ腕のバウンティ・ハンター（賞金稼ぎ）だ。



ブレードランナーの唯一の味方のレプリカント＝謎の美女レイチェル

700階の偉容を誇るピラミッド・ビルにあるレプリカント生産会社タイレル社の社長秘書で、じつにミステリアスな美女。ブレードランナー、デッカードの調査で最新型ネクサス・シックス、それもいちばん新しい技術の結晶である精巧なレプリカントだと暴かれるが、ふしぎなことにデッカードの危機一髪には彼を救け、彼も愛をおぼえる。たいへん魅力的なセクソイド・レプリカントだ。

BLADE

ブレードランナー

RE





ブレードランナーの強力な唯一の武器＝ブラスター

ブラスター（未来の火器）は、レイガン（光線銃）、ニュートロンガン（中性子銃）、ソニック・ブラスター（超音波銃）、など多種多様だが、唯一レプリカントに対抗できるブレードランナーの愛用銃はスーパーテクノロジー時代の最新型レザーガンだ。

レプリカントの見分け方 フォーク・カンプフ検査――



レプリカントと人間を見分ける数少ない手段のひとつで、一種のウソ発見器によるものだが、相手の精神反応の微妙な時間的ズレを読みとるその測定には、かなりの熟練を要し、しかも最新型ネクサス・シックスに関しては、果たして有効な手段かどうかが確認されていない。エンパシー(感情移入)度を測定してレプリカントの正体を見破る未来の代表的なポリグラフである。

RUNNER
対 VS. レプリカント
PLICANT

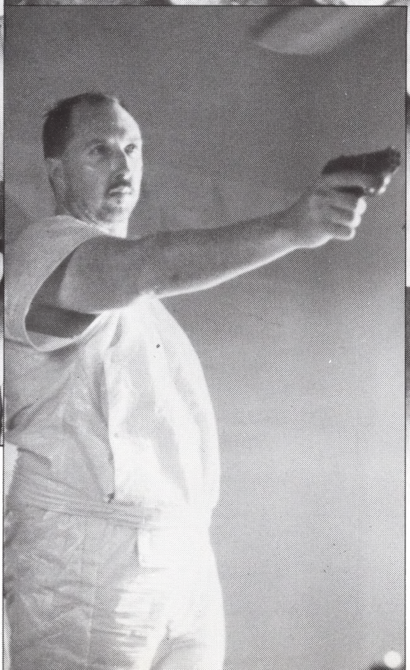




アンドロイドより新しい最新人間＝レプリカント――

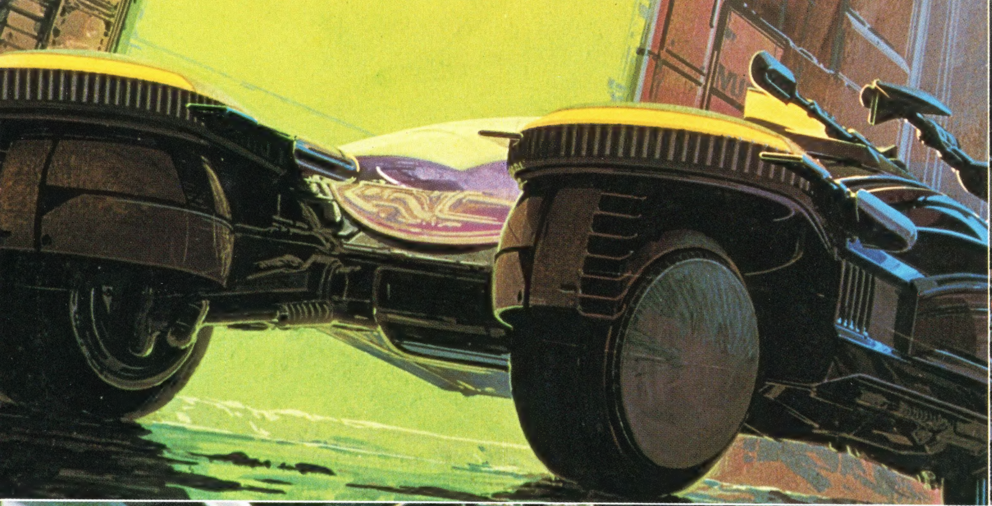
遺伝子工学の新技術によって生産された最高度の人造人間。有機物質よりできている。レプリカントは、人間の奴隷として、宇宙探索、惑星植民地化、宇宙防衛の軍事目的のために造られた特殊人間で、死期もあらかじめセットされている。ただし、レプリカントはまるっきり人間と見分けがつかないうえ、たいへん気分が不安定なため、地球の法律では大規模なレプリカント生産工場を除いて、レプリカントの使用を禁止しており、地球に近づくことさえ許されていない。

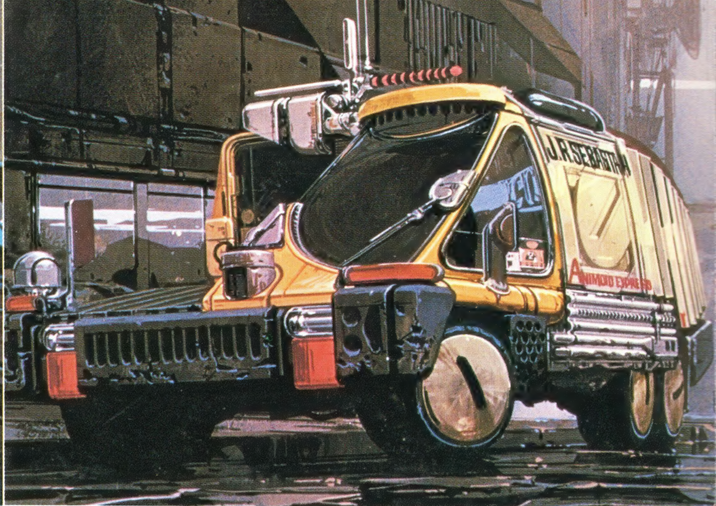


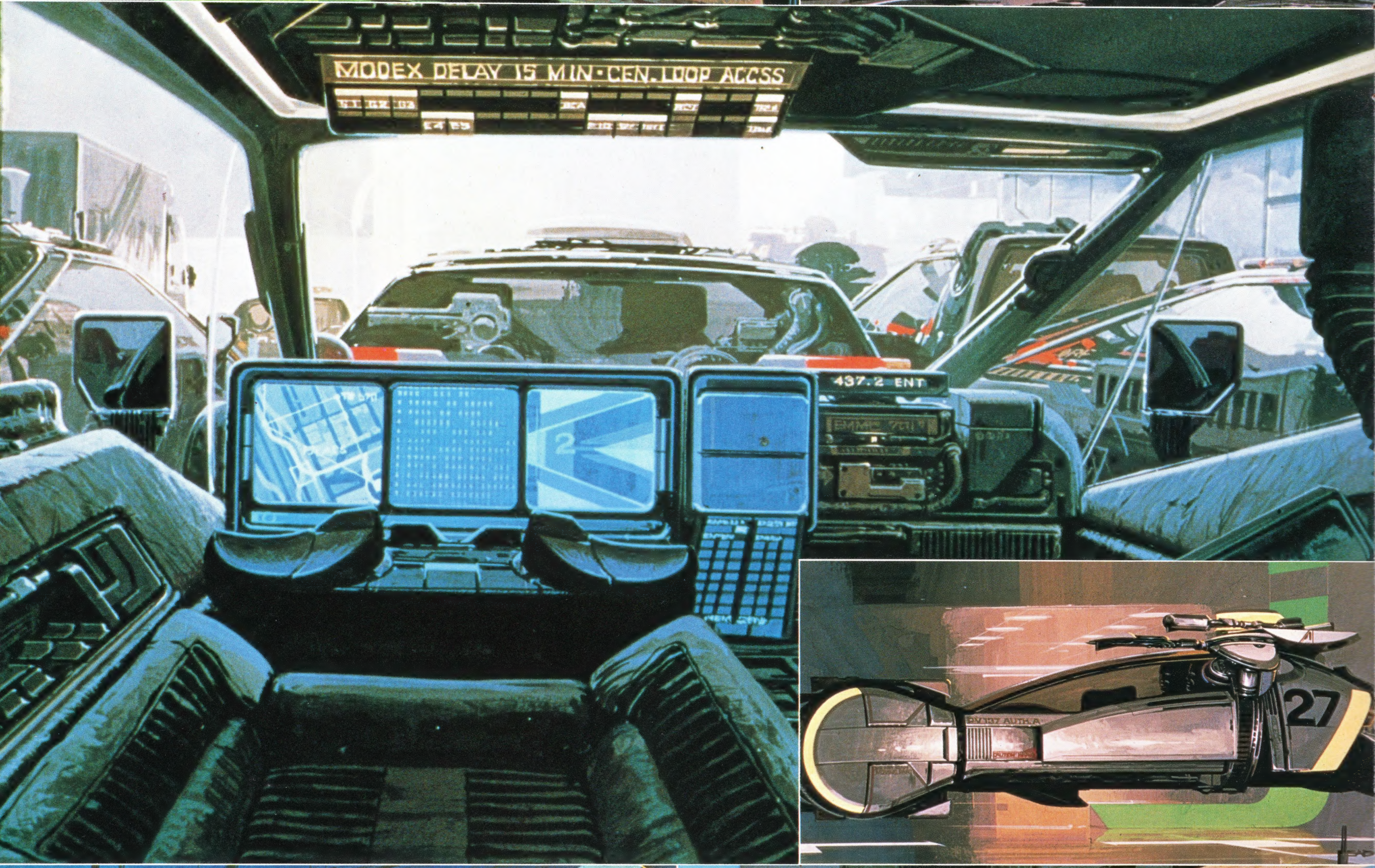


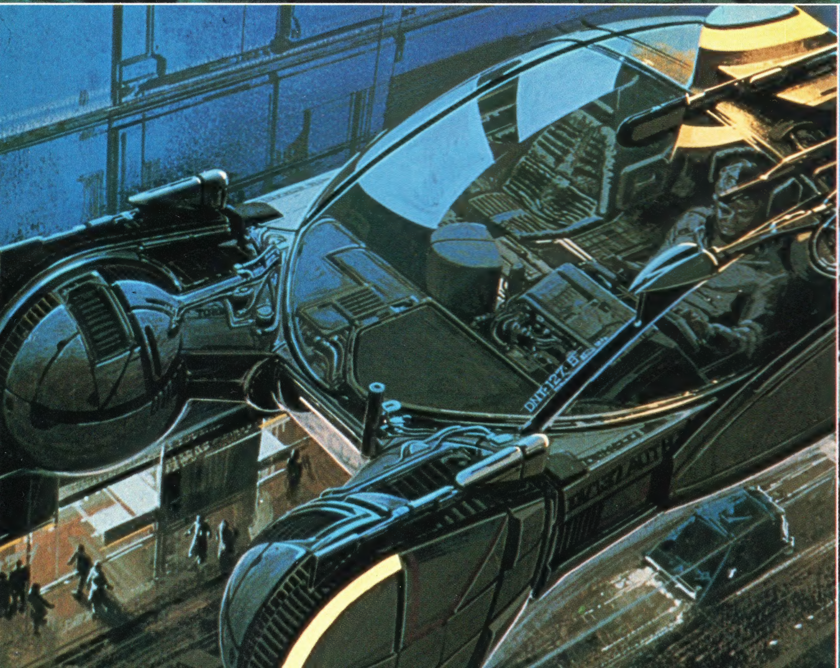
レプリカントは、ロボットともアンドロイドともヒューマノイドとも異なり、理解力、判断力、思考力、行動力など、完全な人間なのであるが、法律では人間と認めておらず、それゆえレプリカントにはなんの権利も保護も与えられていない。

最新のネクサス・シックス型レプリカントにいたっては、1000万種類におよぶ脳活動の選択範囲をもち、外見的に人間とまったく変わりないだけでなく、スーパーマンなみの超能力をもっている。とくに戦闘用レプリカントはずばぬけて敏速・強力で、オリンピック選手よりもはるかにすぐれていて、どんな人間も立ちうちできない強敵だ。

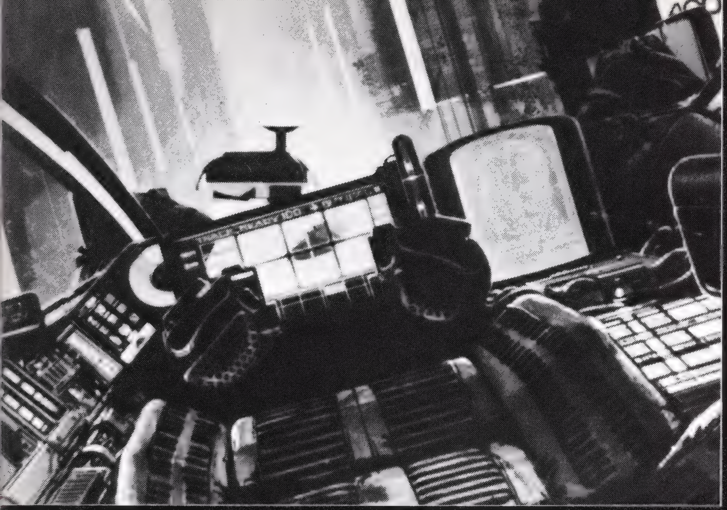





MODEX DELAY 15 MIN-CEN.LOOP ACCSS
437.2 ENT
27




3 FARES TO IMPERIAL



ユニークな美術——工業デザイン界の天才 シド・ミードの未来感覚

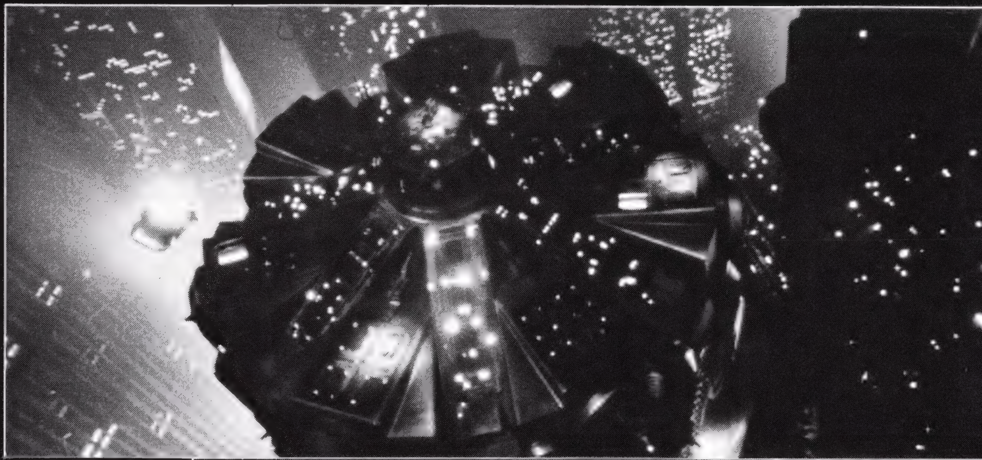
武器などの小道具、建築物などの大道具から、自動車や衣装にいたるまでユニークな雰囲気づくりは、アメリカの代表的な未来派のインダストリアル・デザイナー、シド・ミードの手になるものである。シド・ミードの描くメカは、ラフ・スケッチの段階から、機能性や造型性が完璧なまでにデザインされ、実現不可能なものはない。彼の設計する未来のイメージは、リアルそのものなのだ。

最近のＳＦやサイエンス・ファンタジー映画の多くは、シド・ミードの特異なデザインを〝盗用〟したものばかりであるが、この「ブレードランナー」は彼のすぐれた才能のすべてを本格的に活用した初めての作品である。

インダストリアル・デザイン展や彼の著書『センティネル』で、シド・ミードの印象的な明日の世界のビジョンを眼にした人びとは、彼独得の２つの次元の完成予想図がこの映画のためにじつに効果的に再現されていることを発見するだろう。とくに乗物のデザインはミードの得意とするところで、この映画にはウルトラ・モダンの交通網がおびただしいほど出てきて見る者の目を奪う。

壮大なスケールの特殊効果

「ブレードランナー」は、フィリップ・Ｋ・ディックのベストセラー小説『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』にもとずき、ブライアン・ケリーとハンプトン・ファンチャーが脚本を共同で執筆しているが、映画化に際しては、とくに将来のテクノロジーの視覚的様相に重点がおかれることになった。そのため、50枚のマット・ペインティングス、ビデオ・コンピューター、ミニチュア、視覚効果など特殊効果はすべての点でケタはずれに大規模なものが要求された。「未知との遭遇」「スター・トレック」でアカデミー賞にノミネートされたダグラス・トランブルは、この「ブレードランナー」を手がけるにあたって、つぎのような考えを述べている。「特殊効果もついに成年に達した。特殊効果は中央舞台を占める時代は終わり、そのかわり、映画のドラマの面白さを支えるために使られることになるだろう」







BLADE RUNNER





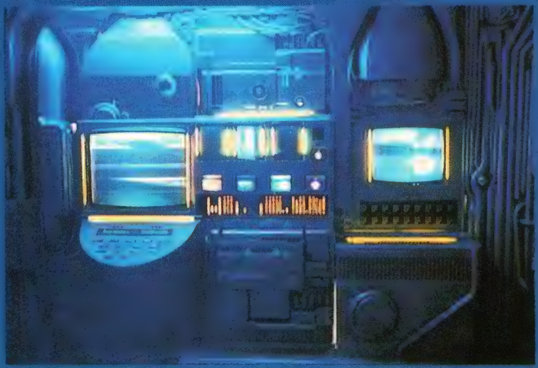
SPINNER

荒廃しきった都会の上空を自由に飛びまわる21世紀の空・陸両用の未来カー《スピナー》

スピナーは2020年代の空飛ぶパトカーである。もちろん空陸両用で、地上を超高速で突っ走り、交通渋滞にぶつかると、ただちに垂直に空中に舞いあがって超高層ビル群の谷間をぬって宙を飛びまわる。スピナーを操縦するには特別なライセンスが必要であり、WPO（世界警察機構）関係者だけしか乗用できない。

スピナーは、燃焼、ジェット、反重力と3種のエンジンを搭載し、それによって自在に捜査活動をおこなうことができるという便利なパトカーだ。警察のスピナーは、垂直に開くガルウィング方式のドアが特徴で、これは水力で作動する。車内には7つのスクリーンが据えつけられ、小型のエスパーも取りつけられ、現在のフラッシング・センサー装置も利用されている。ブレードランナー、デッカードのスピナーは、蒸気力で作動するセダンタイプで、さらにフロントガラスの右下に太陽熱で作動する変換器が備えてある。

この映画にはホーバーカーをはじめカーマニアが涙を流して喜ぶ未来感覚にあふれた夢の自動車がいっぱい出てくるが、それが縦横無尽に疾走するシーンはまさに圧巻である。



ESPER

精巧なコンピューターによる特殊捜査機 エスパー

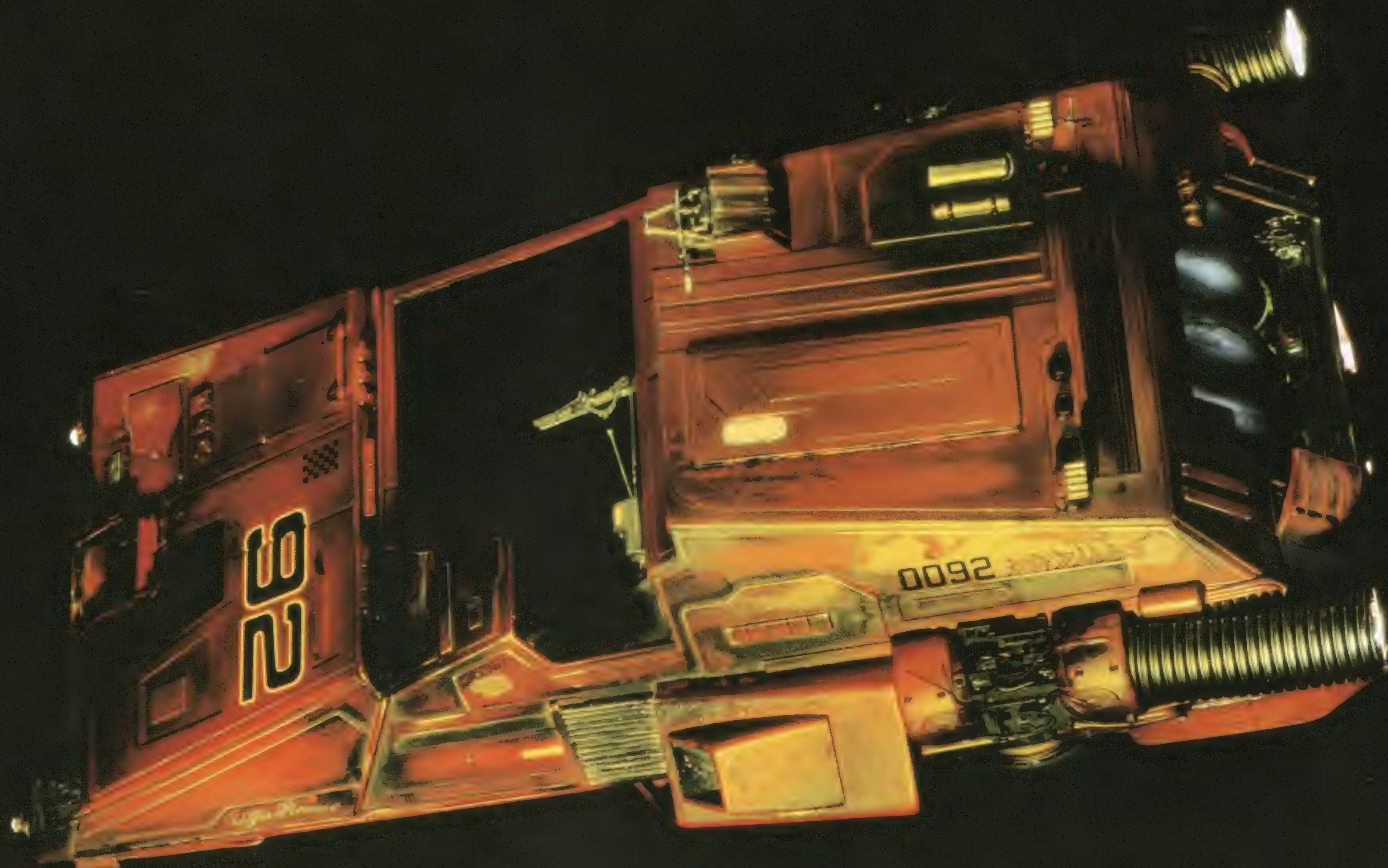
鮮明な立体画像を浮かびあがらせる高度なコンピューター装置で、遠く離れた場所の様子を手にとるように捜査することのできるというたいへん重宝な新鋭器機である。警察のスピナーやブレードランナーの部屋には小型エスパーが設備されており、警視庁の大型エスパーに直結できる仕組みとなっている。

エスパーの機能はひじょうに多いが、とくに写真の分析や引き伸ばしに利用され、また容疑者が不在中に室内をくまなく捜査できるというすぐれた性能をもっている。



POLICE SPINNER





ALFA ROMEO SPINNER



LOBSTER SPINNER



BLIMP



ブレードランナー



SUPER VEHICLES







HARRISON FORD as RICK DECKARD

ハリソン・フォード
〈リック・デッカード〉

「スター・ウォーズ」のハン・ソロ、「レイダース／失われたアーク」のインディアナ・ジョーンズ、そして今年また「ブレードランナー」のリック・デッカードと、常にその年を代表する超大作のヒーローを演じ続け、今やビッグスターの名をほしいままにしている彼は1942年7月13日イリノイ州シカゴに生まれた。ウィスコンシン州のリポン・カレッジ時代に演劇に興味をおぼえ、卒業した63年に同地のバラエティー・ショーの夏期巡業の舞台に立った。カリフォルニアに出て演劇学校を卒業し、ラグナ・プレーハウスの舞台に出ているとき、コロムビアと7年契約を結び、66年の「現金作戦」などにチョイ役、ついでTVにも顔を出したが、これといった大役もなく、一時は俳優を断念して大工をやっていた。TVムービー『カレー少尉の裁判』（未）などようやく作品にめぐまれ「スター・ウォーズ」への抜擢となった。この映画の宣伝のため78年来日。離婚して二人の息子のパパ。

★主要出演作品：⑭アメリカン・グラフィティ、カンバセーション盗聴　⑰スター・ウォーズ、幸福の旅路　⑱ナバロンの嵐　⑲ハノーバー・ストリート、地獄の黙示録　⑳スター・ウォーズ／帝国の逆襲　㉑レイダース／失われたアーク





RUTGER



ルトガー・ハウアー

〈ロイ・バッティ〉

大変な個性の持ち主で、初のアメリカ映画出演となった「ナイトホークス」でみせた特異なキャラクターは、たちどころに映画関係者を魅了し、続いて超大作の仇役に大抜擢されたという期待の俳優である。

1944年オランダ生まれ。両親も俳優で、のちに演劇学校を開くなど、根っからの演劇人である。その影響もあって幼い頃から芝居の世界にいた彼は、16才の時その環境から逃がれようと海の仕事についた。一年あまりの体験は彼に失望を与え、再び芝居の世界に身を置くようになった。

最初は舞台劇中心だったが、ミュージカル「ヘアー」オランダ公演の舞台に立ったことから映画出演のチャンスを得、75年〝TURKISH DELIGHT〞で映画デビューした。この映画は75年度アカデミー外国映画賞にノミネートされるなど話題を呼んだ。

SEAN



ショーン・ヤング

〈レイチエル〉

82年のハリウッドを代表する超大作「ブレードランナー」のヒロインに抜擢され、全世界の映画関係者の注目を浴びる彼女は、これまでに「パラダイス・アーミー」に出演しているぐらいのシンデレラ・ガールだ。

ケンタッキー州・ルイビル生まれ。ミシガン州インターラーケン・アーツ・アカデミー卒業後、ニューヨークに移り、女優を夢見ながら病院勤務。ロバート・パウエル、アン・バクスター共演の〝Jane Austen in Manhattan〞で映画デビュー。将来は、得意なダンスをいかせるミュージカルスターになりたいという。

HAUER as ROY BATTY

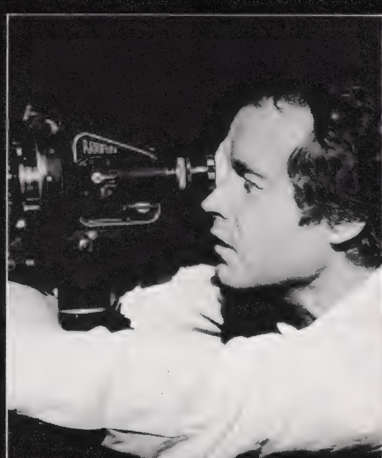


YOUNG as RACHAEL





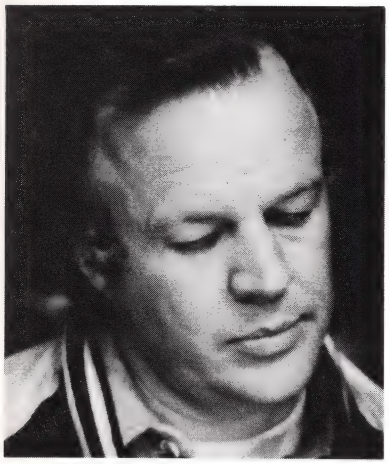
DIRECTED by RIDLEY SCOTT



映像視覚の巨匠 リドリー・スコット監督

「エイリアン」の世界的大ヒットで一躍注目を浴びた、スーパー・ビジュアリスト。監督3作目にして、ラッド・カンパニーの命運を握る超大作をまかされたのは、アラン・ラッドJrが、スコットの並々ならぬ力量をすでに「エイリアン」の時に認めていたからだという。スコット自身はSF監督のレッテルをはられることを嫌い、3作目の作品を各分野に物色していたが、結局彼の創作欲を駆り立てたのはこの「ブレードランナー」だった。

1939年、イギリス、タイン・アンド・ウェア州サウス・シールズ生まれ。ウェスト・ハートルプール美術大学とロンドンの王立美術大学に学んだ。王立美術では映画を専攻。16ミリの短編を製作した。卒業後BBC－TVにセット・デザイナーとして入社。やがてTV監督となった。3年後BBC－TVをやめ、自らコマーシャル製作を始め成功した。アメリカでも仕事をした。その後10年間に3千に近いコマーシャルを作り、数々の受賞をし、有名となった。76年「デュエリスト」（82年公開）で映画監督としてデビュー。翌年カンヌ映画祭に出品して審査員特別賞を獲得。「デュエリスト」はジョセフ・コンラッド原作の短編小説の映画化でナポレオン時代を背景にしたコスチュームものである。

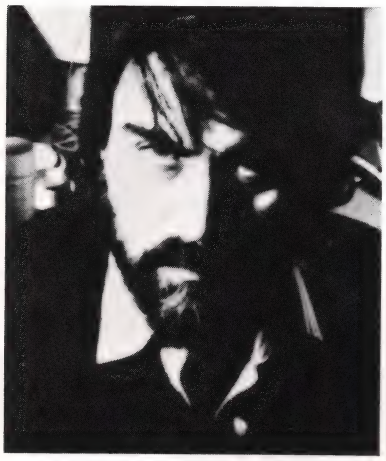


SPECIAL PHOTOGRAPHIC EFFECTS SUPERVISOR
DOUGLAS TRUMBULL
特殊効果の第一人者ダグラス・トランブル

「2001年宇宙の旅」「スター・トレック」「未知との遭遇」で3度もアカデミー賞にノミネートされている巨匠。その秀れた宇宙感覚と視覚化において彼の右にでるものはいない。

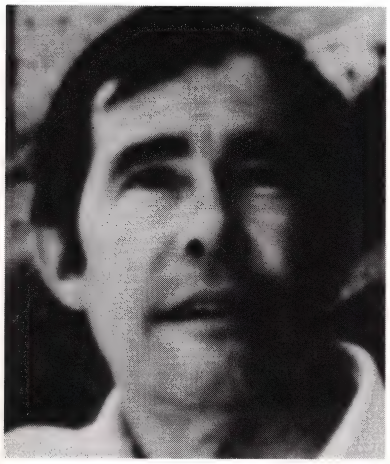
今回の作品は完全に地球が舞台となっているが、その地球自体が科学の急速な発展によって宇宙的な状況におかれているという〝2020年代〟が背景となっているため、彼にとっては得意の分野。地球上に宇宙（未来の地球）を出現させている。

『サイレント・ランニング』では監督をも手がけている。



MUSIC COMPOSED, ARRANGED, PERFORMED and PRODUCED by VANGELIS
キー・ボードの鬼才バンゲリス

本名をバンゲリス・O・パパサナシューといい、1943年3月29日ギリシアに生まれた。15才の頃学生バンドを結成するがパッとせずアート・スクールで絵画を学ぶが、音楽を忘れられずにクラシックを習った。68年デミス・ルソスと共にイギリスに向ったがゼネストの為パリに着き、そこでトリオでクラブに出演しているところを認められアフロデテス・チャイルドというグループ名で「雨と涙」を出したところヨーロッパで大ヒット。その後3枚のアルバムを発表するが音楽観の違いから解散しソロ活動に入る。彼はこう言っている「長い目で見て、支持される音楽を創りたかった。少数の人々が対象だって構わない。コマーシャル・ベースでやりたくはない。」ソロ活動に入ってからは、RCA、エッグ、ポリドールで精力的にアルバムを制作しているが、ポリドール移籍後はオーバー・グラウンドな人気を得ている。彼の活動の特色としては絵画を習っているためか、映像への興味を強く持ち映画のサウンド・トラックが多いことである。また映画とは関係なく作ったアルバム「天国と地獄」がドキュメンタリー・番組「コスモス」のバックに使われ評判になった。また「炎のランナー」では本年度アカデミー作曲賞を受賞。キー・ボードの巨匠としていま最高に注目されているミュージシャンである。



VISUAL FUTURIST
SYD MEAD
未来アートの巨匠シド・ミード

シド・ミードは、アメリカを代表するメカニック・アートの第1人者であり、フィリップ・K・ディックの原作に描かれた21世紀の未来都市のメカを視覚化するために、スコットのたっての希望で起用されたのである。

シド・ミードは1933年7月18日生まれ。幼い頃から絵を描くのが大好きで、飛行機やロケット等の乗物を自分でデザインし、モデルを作るのが得意だった。高校卒業後、しばらく、アニメの仕事や、アルバイトをしながら、絵の勉強を続け、そしてアート・センター・スクールで3年近く学び、優秀な成績で卒業した。

本格的にプロ・アーティスト・デザイナーとして活躍するのは、フォード社のデザイン・スタッフに加わってからだが、彼の描くメカ・デザインは、常に未来志向であり、特に21世紀のメカというイメージが強い。スコットが、彼を起用したのも充分うなずけるというものだ。

シド・ミードは、最初6台カー・デザインを依頼されたが、メカだけでなく、その背景となる未来都市の外観を描き込み、それがスコットをすっかり魅了して、建造物や街路等の細部のデザインまで、シド・ミードの意見を取り入れることになったのである。


















PRODUCTION EPISODES

★撮影うらばなし



40年後の世界で"名作"の賛辞を浴びたい――

この映画に描かれている未来が、すべて正確というわけではない。「シド・ミードが考え出したものの中には〝余りに未来的すぎる〟ものもあったため、それの変型にとどめたこともある」とスコット。出来る限りリアルに未来を描こうとしてはいるけれど、未来の変容ぶりについて一席ぶとうというような映画ではないというわけだ。

真面目な気持からばかりではないにしても、スコットは細部にもリアリズムを期してあらゆる手をつくしている。観客にはたぶん見えないだろうけれど、街角の新聞売場に置かれている雑誌類の表紙にも2020年にふさわしいタイトルや謳い文句が印刷されていて、たとえば「殺し」という雑誌には〝殺しにぴったりのニュースがいっぱい〟という肩書きつきで〝餌をやらないでもいい番犬〟とか〝読者が自分で撮ったマルチ殺人〟とかいった掲載記事が紹介されているし、男性雑誌「ホーン」の表紙には〝宇宙での熱い欲望〟なんてグラフが紹介されている。

それも画面では見えないはずだが、パーキング・メーターには〝15分につき12ドル〟とか〝危険！　このメーターをみだりにいじくると内部の電気装置であなたは殺されます〟とか書かれてある。

「これらのことのいくつかが近い将来に実現するだろうという徴候は現在すでにあるんだよ。ニューヨークを歩いていると、過重な重みにこの町がもう耐えかねてるという印象をあなたも受けるでしょ？」そして更にスコットはこうつけ加えた「この映画に観客が何を見るか、そしてそれを信じてくれるかくれないかについて我々は充分に注意を払ったつもりだ。しかしこの映画にあらわれるものはすべて、我々がいま考えている以上に正確に未来の姿をとらえているだろうと私は思っているよ」

もう１本の《ブレードランナー》

「ブレードランナー」というタイトルは、それがきまったあとになって、同じ題の小説がほかにあることがわかり、プロデューサーたちをあわてさせた。アラン・Ｅ・ナースによって数年前に書かれたその小説もＳＦもので、未来のある貧しい社会が医薬品の供給もままならぬため〝ブレードランナー〟たちによって薬を密輸入するというストーリーなのだが、どうしてもこのタイトルを映画に使いたいため、プロデューサーたちにナースに懇願して承諾をとるという努力までした。

リドリー・スコットはSF以外じゃ満足できない!?

TVコマーシャルの監督から映画演出家になったスコットは、昔から〝積み重ね〟の技法で有名だった。セットの細部の細部にまで至る描写の変幻きわまりない積み重ねによってひとつの映画を組み立てていくというやり方だ。

「人は私のことを偏執的だと言うかも知れないが、それは違う。私はごくノーマルな人間だよ」とスコット。

「ブレードランナー」は彼が映画を撮るために初めてロサンゼルスにやってきての作品だが、ある種のハリウッド式ルールや規則にずいぶん悩まされたようだ。監督がカメラを操作してはいけないというのもそのひとつで、このカメラ操作こそが彼の映画作りには絶対不可欠だというのに。

「監督である以上に私はカメラ・オペレーターなんだよ。だからカメラを操作しちゃいけないというのは、まるでアーノルド・パーマーが持ち慣れたゴルフ・クラブをとり上げられたみたいなもんで、ちょっと不合理じゃないかなって気がするんだ。イギリスは違う。ちゃんと操作できるようになってる。これじゃ能率の上がらないことおびただしいよ」といささかスコットはオカンムリのようだ。

しかし今度の映画のことをしゃべり始めると、焦立ちも消えていくようで、「シナリオが私の狙いにぴったりなんだ。未来がどんな風になっているかについて一応の表示がありながら、あんまり深い細部にまではわかっていない。それが有難いんだよ」というスコットはＳＦの大の愛好家。

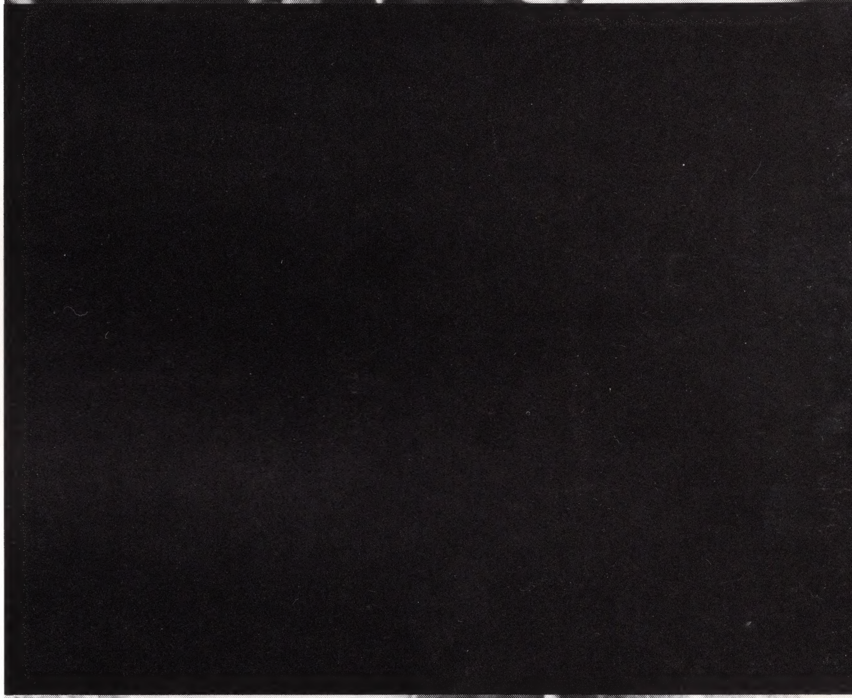
「〝エイリアン〟の仕事が終わったとき、みんな言ったもんだよ、ＳＦ監督というレッテルを貼りつけられるのを避けるために、次の作品にはＳＦ以外のものを選んだほうがいいってね。しかしＳＦ以外のものといったら、ほとんどが私には退屈しごくなんだよ。いつでもどこにでもいるような人たちの、いつでもどこにでもあるようなお話ばっかりでね。それならばむしろ私は風変りな題材に挑戦したほうが楽しい」

スーパー・スター＝ハリソン・フォードは肉体演技者

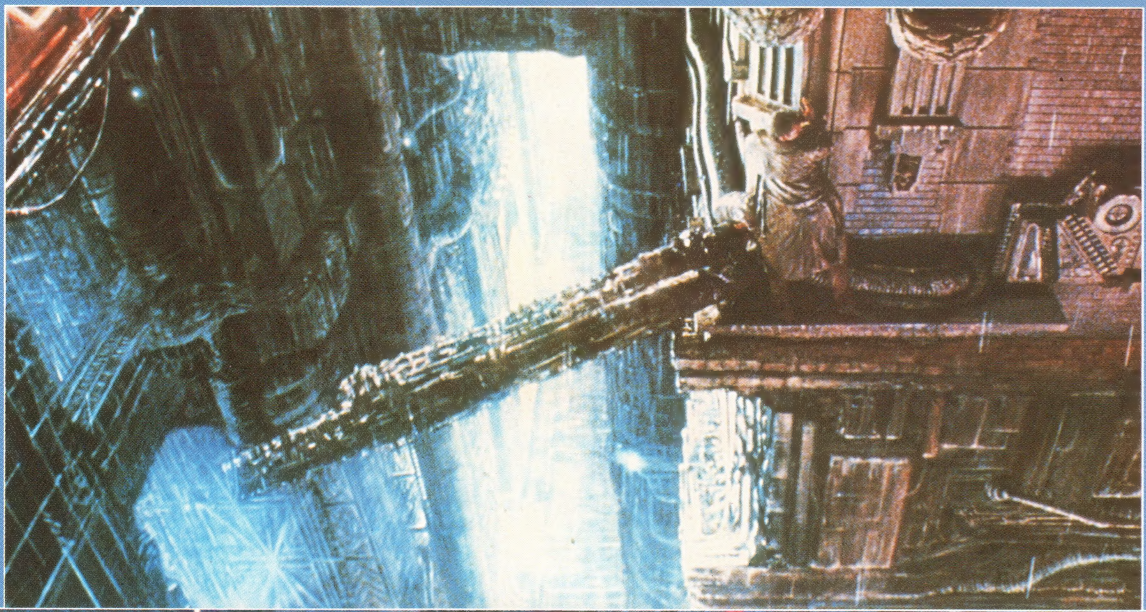
髪をブラッシのように短く刈り上げて、すぐには彼と気づかないほどのフォード。「レイダース」のときと同じく今回も危険なスタント・シーンをたいていは自分でやってのけたらしいが、スタントという言い方は嫌いらしく、「スタントというのは高いビルから飛び下りたり、自動車にぶつかったり、それでケガをしないと思うほうがどうかしてるようなアクションだろ。僕はそんなことはしない。だから僕のはスタントじゃなくて〝肉体演技〟なんだよ」

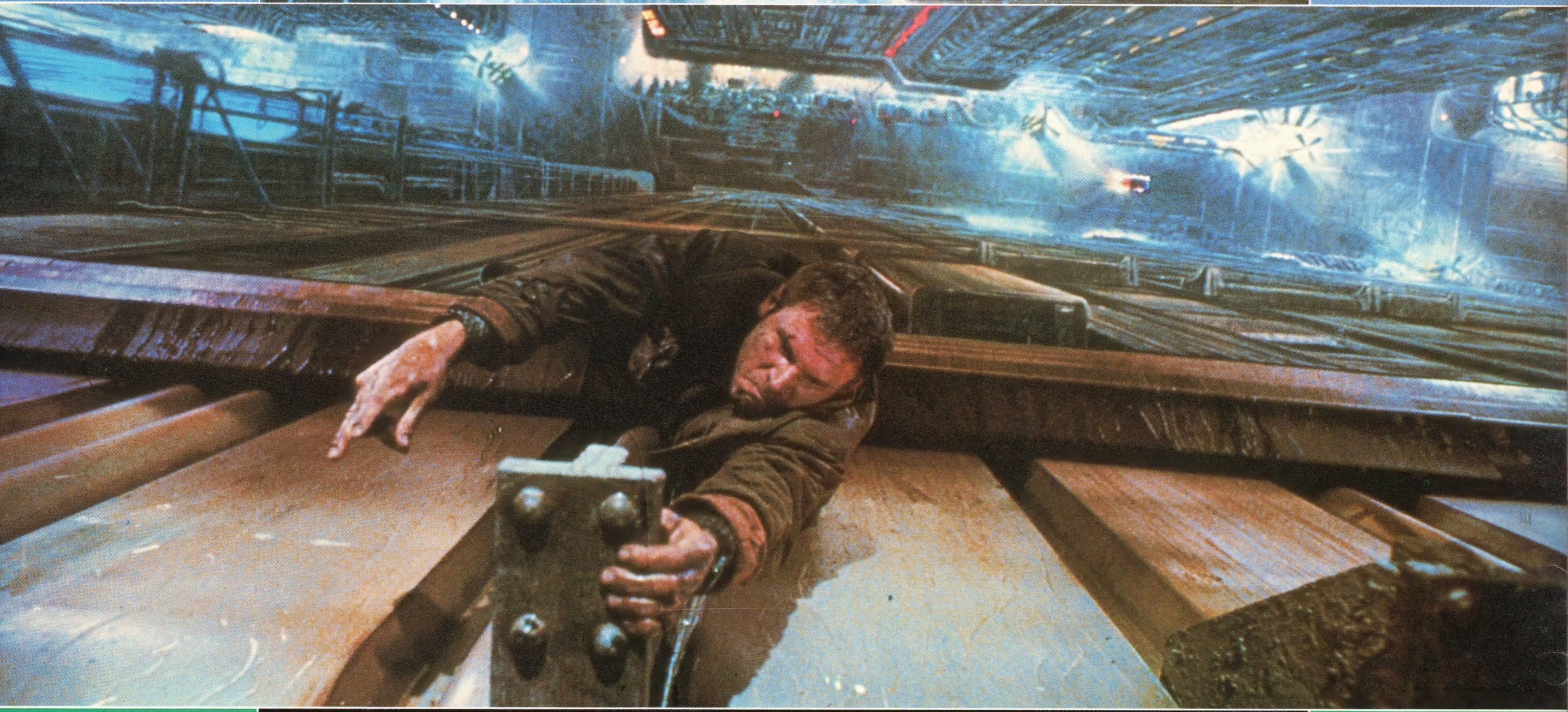
今度の役をフォードは〝肉体的に要求の大きい仕事〟だと言っているが、かといって、ほかの出演者たちのように特別な準備をしたりはしなかった。「練習なんてオレは信じないね。それよりもたっぷり休息をとって、あんまりイライラしないことのほうが大切だと思ってる」













THE CAST

Deckard	HARRISON FORD
Batty	RUTGER HAUER
Rachael	SEAN YOUNG
Gaff	EDWARD JAMES OLMOS
Bryant	M. EMMET WALSH
Pris	DARYL HANNAH
Sebastian	WILLIAM SANDERSON
Leon	BRION JAMES
Tyrell	JOE TURKEL
Zhora	JOANNA CASSIDY
Chew	JAMES HONG
Holden	MORGAN PAULL
Bear	KEVIN THOMPSON
Kaiser	JOHN EDWARD ALLEN
Taffey Lewis	HY PYKE
Cambodian Lady	KIMIRO HIROSHIGE
Sushi Master	ROBERT OKAZAKI
Saleslady	CAROLYN DeMIRJIAN
Bartender ♯1	CHARLES KNAPP
Bartender ♯2	LEO GORCEY JR.
Bartender ♯3	THOMAS HUTCHINSON
Show Girl	KELLY HINE
Barfly ♯1	SHARON HESKY
Barfly ♯2	ROSE MASCARI

THE CREDITS

Directed by	RIDLEY SCOTT
Produced by	MICHAEL DEELEY
Screenplay by	HAMPTON FANCHER DAVID PEOPLES
Director of Photography	JORDAN CRONENWETH
Production Designed by	LAWRENCE G. PAULL
Associate Producer	IVOR POWELL
Music Composed, Arranged, Performed and Produced by	VANGELIS
Supervising Editor	TERRY RAWLINGS
Executive Producers	BRIAN KELLY HAMPTON FANCHER
Special Photographic Effects Supervisors	DOUGLAS TRUMBULL RICHARD YURICICH DAVID DRYER
Based on the Novel "DO ANDROIDS DREAM OF ELECTRIC SHEEP" by	PHILIP K. DICK
Executive in Charge of Production	C.O.ERICKSON
Production Executive	KATHERINE HABER
Unit Production Manager	JOHN W. ROGERS
1st Assistant Directors	NEWTON ARNOLD PETER CORNBERG
2nd Assistant Directors	DON HAUER MORRIS CHAPNICK RICHARD SCHROER
Costumes Designed by	CHARLES KNODE MICHAEL KAPLAN
Art Director	DAVID SNYDER
Visual Futurist	SYD MEAD
Additional Photography	STEVEN POSTER BRIAN TUFANO B.S.C.



製作・提供／スティック・インターナショナル株式会社　東京都中央区京橋３丁目９番９号　和ビル５Ｆ
発行／松竹株式会社 事業部　東京都中央区築地１丁目13番５号
定価450円



BLADE RUNNER

PANAVISION ® TECHNICOLOR ® DOLBY STEREO ™ IN SELECTED THEATRES

A LADD COMPANY RELEASE IN ASSOCIATION WITH SIR RUN RUN SHAW

THRU WARNER BROS A WARNER COMMUNICATIONS COMPANY